バリアフリーペンション

# まついだ森の家通信

No.9　　２０１１・７・１

NPO 法人　まついだ森の家
群馬県安中市松井田町上増田６７０
TEL／FAX０２７－３９３－０６５５

## 里山歳時記

犬が啼いています。福島から引取られて来たのです。白くておとなしい中型犬です。朝と夕方に少しだけ啼いています。この町は幸いにも風景の破壊をまぬがれたが、新潟長野それに三陸での震災の事を思うと群馬だけは今後も無事という訳ではない。想定外の事も必ず起こるものだという強烈な学習をした。今だに身体のどこかにまとわりついている不安げなものを感じながらこの町をながめて見れば不思議な事に桜も咲いたし、ニセアカシヤ、フジなども満開になった。初夏の今頃は雪をかぶったようにヤマボウシが咲きシャラの花が咲き、クリの木は花房でムンムンしているし梅雨の合間の晴れた日は気温もえらく高くなってクマバチが終日ブンブンしている。田んぼはきちんと田植えが終っていて、川すじではノスリが夕方遅くまで橋の欄干に止まってじっと獲物を待っている。つまりこういう事が超マジックにでもかかった様に一瞬にして消えるという事はどういう事だろうか。この頃、あの犬が何と言って啼いているのかはっきり分かる様になりました。

文/イラスト　石橋

## 徳久純恵さんのお宅訪問

徳久さんは平成２０年４月に引っ越して来られました。４年目に入りました。

お住まいは、松井田町上増田、細野の一本桜と細野小学校の間です。

家の前の道を通るたびに素敵なデザインのお宅だなぁと思い、屋根から出ている煙突にあこがれておりました。

ご家族は、ご主人、中一と小五の男の子の４人暮らし。

転勤族のご主人と、結婚後は熊谷＝三重の桑名＝高崎を経て松井田に。

「北海道が大好きで、本当は松井田というのは視野の圏外でした。榛名山麓に土地を探していて、不動産屋さんにお願いしていたら、なんとなく紹介されて見に来たのがここでした。」別にインスピレーションが働いたわけでもなくて、家に帰ってからご主人と話をして行くなかで決まって行きました。

「里山の暮らしがしたかった。決め手は子供たちに自然がいっぱいのふるさとを作ってあげたかった。」

リビングには薪ストーブがあり、暖房だけではなく、お料理にも大活躍、煮物をしたり、焼き芋を作ってストーブの傍で熱々の皮むきながら食べたり、夜の残り火のぬくもりを使って温泉卵もできます。

子供たちは学校の帰り道にストーブの着火に使う杉の葉を拾って来てくれたり、浅間おろしの強風で玄ドアが開かない時、風の音でタイミングを見つけてドアを開けるなど、すっかりここの暮らしになじんでいる様子。

群馬名物の、からっ風と杉花粉で１１月から５月までは洗濯物が外干しできませんが、水と空気がおいしくて、雨・霧・雲・雷など,自然のなりわいが窓から見えて、すべて自分のものみたいで楽しいと話して下さいました。

今年は稲作にも家族で挑戦するとか！！気負いみたいなものを感じさせない自然体で居心地がよく、つい長居をしてしまったお宅でした。

(内田　記)

**最近、松井田へ引っ越して来られた方のお宅に伺い、**
**なんとなくお話を聞き、ご紹介するコーナーです。**

## 天田さんのお宅訪問

森の家から上流方面へ山道を右に左に曲がること 10 数分、軽の車がやっと通れるくらいの杉木立の道の奥に、目指す天田家はありました。平飼い養鶏と無農薬有機野菜・米作りを生業としている天田家は、上増田と上後閑の境目にあります。

ご自分達で作られたというその家には、ご夫婦（寛幸さん、あけみさん）とお子様２人（草くん中１，ナラちゃん小３）、そして鶏２００羽・ヤギ３匹・犬２匹・ウサギ１匹のなかなかの大所帯でした。

松井田に来る前は福島県飯舘村に住んでいらして、転居されて丸３年、松井田の印象を伺うと、開口一番、野性味がなくなったかなとの一言。初めての訪問で、充分ワイルドに感じていた私はびっくり。今までどんな暮らしをされていたのだろう、どんな経験をされたのだろうと、興味は一気に膨らみました。

天田さんはもともと高崎のご出身で、高校生ぐらいから漠然と自然に対する憧れをお持ちだったとのことです。ご両親の反対もなく、却ってたいしたもんだと応援してくれたそうです。北海道・インド・マレーシア・アジア学院・やまなみ農場などたくさんの土地・経験をされ、奥様にも出会い、飯舘村に落ち着かれたのですが、より穏やかな気候を求め、松井田に来られました。自然に恵まれ、周りに家がなく静かそうだったのが、決め手になったとのことです。敷地面積１５００坪・田畑１２００坪、動物の世話、薪割りなど重労働の連続でしょうが、自分には合っている生き方だとおっしゃいます。

天田家では、最近テレビを買われたそうです。お子さん達には自分たちからスイッチを入れる習慣はないのですが、動物好きということで「ダーウインが来た」を楽しみにしているそうです。草君は将棋を、ナラちゃんはお絵かきが好きで、農作業を含めおうちの手伝いを沢山してくれるとのこと。学校まで歩いて４０分。自然とともにたくましく生きている様子がうかがえます。

美味しい人参を作りたい、美味しいお米を作りたい、子供と一緒に子供部屋を作りたい。夢は益々広がっておられました。

お話を伺っている間もずっと、ココッ、ココッコと鶏の鳴き声が聞こえました。自由に歩き回った卵はどんな味がするのでしょう。ちょっと食べてみたくなりました。森の味がするのでしょうか。

奥様にもお会いしたかったです。

（高橋 記）

# 震災チャリティイベント はらっぱまつり 6月5日(日)

森の家からのんびり歩いて５分ほど、緑に囲まれ川のせせらぎが
心地よく聞こえるはらっぱにて、「元気のでる・はらっぱまつり」が開催されました。
梅雨時にもかかわらず気持ちの良いイベント日和、素敵な１日になりました。

**「はらっぱまつり」開催まで**

森の家では、例年３月に「春市」を開催、皆さんに楽しんでいただいており、今年は３月２７日実施予定で準備は着々、きれいなチラシもたくさん配った・・・ところで、**３・１１大震災**！　松井田周辺では、地震の被害はまったく無く、しかしガソリンの入手困難と、計画停電の見通し不透明のため、実施の見送りを決めました。何よりそんな気持ちになれず・・・。でも必ずチャリティで「復活春市」をしましょうと申し合わせました。

そして、気持ちを同じくする、前橋「まーやの家」さんからの、「はらっぱ」での開催のお話。即実行委員会が立ち上がりました。

１０００坪の、文字通りただの「はらっぱ」が、その１日、たくさんのスタッフと参加者のおかげで、音楽と子供たちの声が響きあい、５００人以上の集う交流広場になりました。

いらして下さった方々ありがとうございました。来られなかった方々、写真でお楽しみ下さい。

**「はらっぱまつり」その日**

力強く響き渡る和太鼓で幕を開け、シーク、ウクレレ、サックスの演奏、美しいコーラス隊のハーモニーが、みんなを楽しませ和ませてくれました。

特設ステージでは紙芝居や人形劇の上演あり、盛り沢山のプログラムで、たくさんの笑顔が溢れました。

様々なショップがそれぞれカラフルなテントを設け、おいしい紅茶や珈琲、特製カレー、味噌汁、パンにお菓子に生ビール！などを販売。

ウクレレ体験、子供服のフリマ、手作りクラフトなど楽しいお店がたくさん並び、お餅つきも登場。

巨大なシャボン玉作りや、自転車をこぐとシャボン玉がでてくるユニークな装置に子供は釘付け！

新聞紙で作るおしゃれでエコな紙袋ワークショップは大人にも子供にも大好評。

子供のための石っころアートのブースの一角には、被災地へ送る寄せ書きボードが設けられ、
子供たちがペンを片手に素敵な絵と共に思い思いの応援メッセージを書いている姿が見受けられました。

本部席横でも募金に添えるメッセージを受け付けました。

この日、はらっぱに集まった多くの方々の想いと元気が少しでも被災地へ届きますように。そして被災地とつながり続けること、私たち一人一人にできることを考え行動していけたらと切に思います。

（吉井　記）

**「はらっぱまつり」**の募金と収益金　１６３，０３６円は、
**「被災地障がい者支援センターふくしま」**に、全額を送金いたしました。
。皆様に感謝してご報告申し上げます。

# はらっぱまつり アルバム

はらっぱへの小道

シルキー加藤デュオ

やまねこ座　人形劇

めるへんシアター　紙芝居

巨大シャボン玉♪

手作りクラフトショップ

シーク演奏　青木大輔

しあわせ太鼓

生ビールあり！

森の家ではチャリティーバザー

石っころアート

被災地のみなさんへ
熱いメッセージ！

富澤栄子＆晴れるや

## 泣いて笑って進んでいく

東日本大震災の甚大な被害の中、私たちは不便は引き受け、物心の苦難は少しでも分かち持っていきたいと思う。震災で、多くの命が失われた事、家族を失い悲しみの中にいるたくさんの方の気持ち、今も水や電気がなく苦労されている方がいる事。そのどれも思いやる事は難しい。

そして、始まった計画停電。現実は、なかなか大変だった。

私の娘は、養護学校の中学部２年、重度の知的障害がある。娘は、家族や周囲の人の体調の変化や、マスクやカットバンをしている事に気付き、気にかける。実際に目に見えない事に対応するのは苦手なのだ。計画停電の意味もわからない。だだ、娘にとって、夜の停電は、いつ終わるかわからない暗闇だ。（私たちも、理解できない事象には、恐怖と不安を感じる。放射能がそうであるように）

だから、最初の計画停電は、娘は、ずっと泣き、大声を出していた。家族全員の長い時間。停電が終わった時には、歓声があがった。

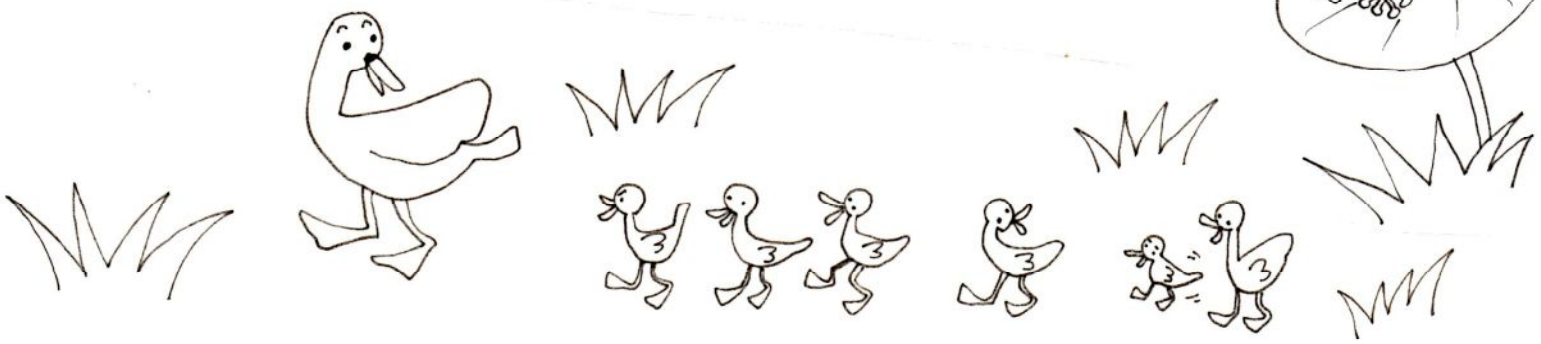
養護学校の仲間も電気のスイッチを２時間押し続けて壊したり、見えないテレビに苛立ち倒したりしたと聞いた。

でも、私たちは、次の時までに、親同士で情報交換したり、相談し合って、子供がこわがらないように準備、工夫して、乗り切った。今までも、服を着る、食事、トイレ、字を書くなど、目の前にある壁を一つ一つ乗り越えてきたのと同じように。

私には、障害児の親という事で共感し合える仲間、支えて下さる方がたくさんいる。そして、何より、ブラウスのボタン一つ、できるようになるまで時間はかかるが、その分、できた時に、大きな大きな喜びをくれる娘がいる。家族の真ん中に娘がいる。これからも、泣いて、笑って、乗り越え進んでいく。

被災地が必ず復興を遂げていくように、時間がかかっても、前を向いて進んでいく。

（阪本　記）



## こんなイベントありました

### 冬の手作り講習会

１／２７，２／９　やっちゃんの味噌作り
２／１４　よしひこさんのこんにゃく作り
２／４，５　かよちゃんのリース作り

### 山菜パーティ＋越後ごぜ歌

５／１４　坐禅断食会の塩川先生が、新潟から山菜を背負って自ら調理。春を迎える身体になる！

## こんなイベントあります

**高階康彦の「私の大豆畑プロジェクト」**

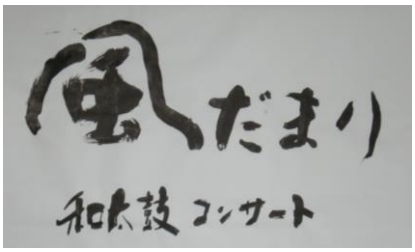
味噌・醤油・豆腐の原料である大豆の自給率は３％。輸入大豆の半分は遺伝子組み換えです。安心な大豆を自分で作って食べましょう。

森の家の近くの畑で、共に種まき草取り収穫をします。年 5,000 円の出資で、約５キロの大豆を受け取ります。ご希望により味噌、納豆、豆腐作りも。

**高階康彦の「たんぼプロジェクト・自分で食べるお米くらい自分で作ろう」**

無農薬・無肥料で、田植えから草取り・収穫。年 5,000 円、10 キロを受け取ります。

いずれも参加希望者は、森の家まで。




首都圏に住む、小学生から 60 歳代までの、和太鼓に魅せられた 12 人の人たち。

関根まこと先生の厳しい指導の下、研鑽を重ね、素晴らしいチームワークで、各地で演奏活動をしています。昨年、初めて**まついだ森の家**に宿泊して練習合宿。成果を**ふるさとセンター**で地域の方々に披露していただき、大好評でした。**「風だまり」**の皆さんも、ガラス越しに妙義山をバックにしての会場を気に入ってくださり、今年再びの公演となりました。そろいの藍染の衣装もきりりと、去年よりもさらに上達！曲ごとに工夫を凝らした編成、洗練されたフォーメイションで観客を魅了しました。

## 森の家　この頃

バリアフリーペンションとして１５年､ＮＰＯ法人になってから５年目にはいりました。

３・１１を受けてスタートした今年度は、６月５日の震災支援チャリティイベント「はらっぱまつり」に続いて、夏休みには、福島から原発の放射線避難の自閉症の養護学校生とそのご家族の宿泊受け入れをいたします。日々の不安・不自由から、一時でも楽しい時間をすごしていただければと、ボランティア体制万全で、お待ちしています。

里山の環境整備も、都市部の若い方々を中心に、楽しんで回を重ねています。福祉的ハーブガーデン作りや、里山さんぽ道作りへと夢も広がりそうです。

７月 21 日からは、**毎週木曜日「森カフェ」**がオープン。

10 月９日（日）には恒例秋のコンサート「青木大輔サンポーニャの響き」も実施予定。

また、７、８、９の３ヶ月間、**群馬県**で**観光ＤＣキャンペーン**が行われおり、さまざまなイベント、サービスが繰り広げられています。お楽しみにお出かけください。

ベストシーズンの秋、そして温泉とロウバイの花咲く冬も、お待ちしています。

### 編集後記

編集というのは難しい｡素材の良さを最大限にかっこ良くセンス良く仕上げたいと思うとかなり悩む。なんだか料理に似ている。みんなでワイワイやりながら作った今回の通信は、楽しく作れた気がする。そんなところが紙面に出て伝えられたら嬉しい。　　（内）

安中に住んで 18 年､自然に恵まれた所と思っていた我が家｡徳久さん宅の 360 度のパノラマ。天田さん宅の森の中のたたずまい。自然に住むということはこういうことだと、しみじみ感じました。初めての編集委員、身も心もウロウロしましたが、楽しかったです。（Y）

夫婦揃って「ねばならない」に弱い私達。日常生活も、イラストも、二人でやっと一人前!?　それぞれが、得意なこと、好きなことをして、休みたいときには休んで、無理せず楽しく、お互いを思い合う。そして、足るを知る。そうやって、みんなでなんとかやっていく、そんな世の中、のんきでいいな。（R）

三日間首都圏に行っていた｡節電？どこが？電車もお店も寒いくらい｡照明も賑わいも普通に見える。当たり前の生活が当たり前にできる日常の中で、あの時のショックもたちまち風化する。ＴＶから映像が消えれば、私たちの頭の中からも消えていく・・・人間はそのようにできているとしても､それほどに日常が圧倒的だとしても､だから､つなぎとめるためのアクションが必要。（知）

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

ご感想お寄せください　Ｅ-mail　matsuida-morinoie-2007-npo@amber.plala.or.jp

ご報告

ＮＰＯ法人まついだ森の家は、６月１２日（日）、理事会及び総会を開催いたしました。

平成 22 年度事業報告及び決算、平成２３年度事業計画及び予算を提案し承認をいただきました。また、役員の改選が行われ、理事長に黒羽知代（再任）、副理事長に小林脩（新任）、理事に石橋與子、木下美幸（以上再任）、堀越美妃（新任）、監事に上泉歩（再任）が選任されました。

平成２３年度はこの体制で運営いたしますのでよろしくご支援くださいますようお願いいたします。

なお、これまで理事をお引き受けいただいた影山太一様、内田武夫様は、任期満了に伴い退任されました。永い間「まついだ森の家」の理事として御指導いただきましたここに厚くお礼申し上げます。

ホームページＵＲＬ　http://www.normanet.ne.jp/~morinoie/

「まついだ森の家」で検索してください

ホームページトップから、ブログをごらんになれます。

＊まついだ森の家のホームページは、視覚障がいの方のための読み上げソフトに対応しています。

ブログＵＲＬ　http://matsuidamorinoie.gunmablog.net./

「まついだ森の家里山日記.」で検索してください

Ｅ-mail　matsuida-morinoie-2007-npo@amber.plala.or.jp

まついだ森の家応援団会員　いつでも募集中！

ＮＰＯ法人まついだ森の家は、二つの柱を立てて活動していきます

◎　ハンディをお持ちの方とその支援者に対する支援。
　　気兼ねなく泊まれる宿と、交流の場を提供する。

◎　里山の豊かな自然環境を発信していく。

その存在を応援してくださる方々が「応援団会員」です

年会費は　１０，０００円、３，０００円、１，０００円

まついだ森の家通信と、各種イベントのご案内をお送りいたします。

## 福島からの原発被災ご家族の受け入れ

森の家では、４ 月から「福島県自閉症協会」および「被災地障がい者支援センター福島」を通じて、震災・原発避難者の受入れを発信しておりましたが、２ヶ月間応答はありませんでした。

ところが、夏休みを前に、放射線量が上がってきている福島市内の自閉症児のご家族から、10 日間のお申し込みがあり、７月 21 日から 31 日まで宿泊されています。

森の家では、ボランテイアさんによる支援体制を組んでお迎えしました。

「知らない土地で、こだわりのある子供と長期間どうやってすごせばいいのかと思い、途中で帰ることも覚悟で来たけれど、本人がとても満足して穏やかに過ごせてほっとしています。」と言っていただいています。（養護学校のお仲間も、あちこちに一時避難しているそうです）

＊福島では、窓も開けられず、戸外での運動もできない、先の見えない暮らしが続いています・・・・